体に影響しかねない状況だった。

その窮地を救ったのは先輩社員たちだ。間違えた孔を溶接で埋め、正しい位置に再加工する骨の折れる作業を、先輩が引き受けてくれたのである。この経験から、図面を正確に読み解き、確認を徹底する重要性を胸に刻んだ。間違えたときの直し方も先輩に詳しく聞き、失敗を糧に新たな学びを得ることができた。

大きな製品が完成したときの達成感

ヨネモリで働く魅力は、大規模なものづくりに携われることだと宮崎は言う。ビルや大学など、巨大建築物の骨組みを手がけることに誇りを感じている。その想いを強くするのは、製作した鉄骨が現場で組み上がる姿を見るときだ。

「自分たちが作った柱が立っているのを見ると、本当にすごいなと思います。製品が大きく量が多いと時間がかかりますが、大変な分、やり終えたときの達成感はひとしおですね」。

工場では横たわる鉄の塊が、現場では空へ力強くそびえ立つ。その光景は圧巻で、「この仕事は、やっぱりかっこいい」と実感するという。

仲間とともに成長し続ける未来へ

宮崎の探求心は尽きない。

「まだ経験のない作業がたくさんあるので、できることをもっと増やしたい」。

現在は大組作業が中心だが、今後は「小物」製作や「仕口（しぐち）組立て作業」など、より専門性の高い作業にも挑戦したいと意気込む。その視線は、さらなるスキルアップと幅広い業務への貢献へ向けられている。

宮崎の情熱を支えるのは成長意欲だけではない。「良い製品を作って、お客様に喜んでもらいたい」という思いが常にベースにある。

そして、日々の業務を支えるのは職場の良好な人間関係だ。社員同士の仲が良く、アットホームな雰囲気は「ミスをしてもすぐに先輩に聞ける」安心感につながり、若手の成長を後押しする。また、経営陣の心遣いも、社員の働きやすさにつながっている。

「米森社長は社員のことを本当によく考えてくれています」。

工場の断熱材設置や換気扇増設など、細やかな環境改善は社員の安全と健康を守り、快適な作業空間を生み出している。

ものづくりへの情熱を胸に、成長を続けてきた宮崎。確かな技術と仲間との絆を力に変え、これからもヨネモリをさらに飛躍させるための一翼を担っていくに違いない。

YONEMORI TIMES
Vol.95 2025.7.10 発行



宮崎 佑斗（みやざき ゆうと）

鉄構部 鉄構2課

新卒で入社して以来、ものづくりへの情熱を燃やし続けてきた宮崎佑斗。現在は工場の主要工程「大組（おおぐみ）」を担当している。製品の精度へのこだわりを持ち、粘り強く困難を乗り越えてきた宮崎の歩みと仕事への想いに迫る。

ものづくりへの憧れ

宮崎が株式会社ヨネモリの門を叩いたのは「地元で働きたい」という想いと、何かを作って形にする仕事への憧れからだ。高校の恩師に相談したところ紹介されたのがヨネモリで、ものづくりの会社である点に興味を惹かれ、入社を決意した。

２０１７年４月、鉄構部鉄構２課に配属され、以来、建築物の根幹を支える鉄骨製作に携わる。現在の主な担当は、工場内で製作された部材をつなぎ合わせ、巨大な構造物を組み上げる「大組」工程だ。このスケールの大きな仕事を通じ、宮崎は日々、目の前で徐々に構造物が形を成していく瞬間の喜びに触れている。

精度を追求する日々

宮崎が大組で最も大切にするのは、精度へのこだわりだ。ミリ単位のズレも許されない鉄骨の組立ては、ヨネモリの品質を支える礎となる。大組は工場のメイン作業であるため、特に精度には十分に気を配らなければならない。

これまでには数々の困難な作業にも立ち向かってきた。複雑な形状の柱や初めて扱う製品の組立ては毎回が挑戦である。そうした経験を通じて乗り越える術を身につけてきた。

「忙しいときや難しい製品でも、手を動かし続ければ必ず乗り越えられると実感しています」。

粘り強くあきらめない姿勢が成長の鍵となったのだ。

とはいえ、一人ですべてを解決できるわけではない。不明点があれば、まずは先輩に聞くことも重要だ。経験豊富な先輩のアドバイスを受け止め、実践する。そうして壁を乗り越えながら経験値を高めてきた。

失敗から得た教訓

順調に見える道のりも、決して平坦ではなかったという。入社2年目に、柱の「コロ」部分への孔あけ作業で位置を間違える大きな失敗をした。ひとつのミスが製品全



企業情報

- ◆創 業 年：1918 年 5 月（大正 7 年）
- ◆設 立 年：1968 年 5 月（昭和 43 年）
- ◆年　　商：8,156 百万円（令和 7 年 3 月）
- ◆従業員数：117 名（令和 7 年 3 月）

宮崎さんへのメッセージ

2名の社員から宮崎さんへの、
今後の活躍を願うメッセージが届きました！



鉄構1課 課長
東（ひがし） 祐彦（よしひこ）さん

エピソード

シャフト裏当てから大組と、リスクの高い仕事を引き受けてくれるなど、とても頑張ってくれて助かっています！仕事以外でも漫画を貸してくれたり、様々な情報を教えてくれたりして、とてもありがたく思っています。

Message

これから難易度の高い大組が増えてくると思いますが、どんどん技術と知識を身につけていってください。共に頑張りましょう！



鉄構2課 課長
翫（いとう） 貴史（たかし）さん

エピソード

指示した作業に黙々と、一生懸命に取り組む姿は頼もしい限りです。普段はあまり笑顔を見せませんが、話しかけたときに冗談を言うと見せる笑顔は、とても可愛らしく感じます。

Message

いろいろな作業にチャレンジしてくれてありがとう。これからも挑戦することを忘れずに！

部署クローズアップ

鉄構1課





鉄構部 鉄構1課 課長
東（ひがし） 祐彦（よしひこ）さん

工場全体の最初の工程を受け持つのが鉄構1課です。「遅れや間違いを出さない！」という責任感を持ちながら、日々スキルアップを重ねています。課長の東さんに鉄構1課の雰囲気や課題などを伺いました。

鉄構1課はこんな課です！

ベテランと若手が切磋琢磨できる環境

男性ばかり11人が所属しており、このうちベトナムからの実習生が4人。20代からベテランの60代まで幅広い年齢層のメンバーで構成されています。業務は、入荷した材料を加工して次の工程に流す「一次加工」がメインです。ここが滞ると次の工程が滞ってしまうため、スピード感が求められます。機械を使う仕事ですし、実習生は言葉の問題もあり、黙々と作業する雰囲気なりがちです。その中でも、ベテラン勢がキャリアや技術を活かして作業を進め、若手からの質問にも積極的に答えるようにしています。全体としては技術を学ぶのに適した環境で、和やかな雰囲気です！

鉄構1課の魅力

全体の流れを知るにはもってこいの部署

同じ作業の繰り返しも多いため、飽きっぽい方には向かないかもしれません。一方で、材料の板にも加工技術にも様々な種類があり、集中して取り組めば学べることが多く、スキルアップも早いのが特徴です。また、工場全体の流れを俯瞰して考えるときには、流れの入り口である一次加工の部署がどのような作業をしているかを知っていると非常に役に立ちます。他の部署に異動になった際にも、ここで学んだことを大いに活かせると思います。

鉄構1課のキーパーソン



米谷（こめたに） 明（あきら）さん

20年近くを鉄構1課で働いている大ベテランです。私はここへ来てまだ3年で、わからないこともたくさんあるのですが、機械やラインについては米谷さんにお任せすればきちんと流れていきます。本当に頼りになる先輩です！



林（はやし） 大紀（だいき）さん

林さんも鉄構1課歴が長い先輩です。切板の関係をうまく処理してくれます。難しい場面でも林さんなら何とかしてもらえるという信頼があり、頼りがいのある方です！

鉄構1課の目標

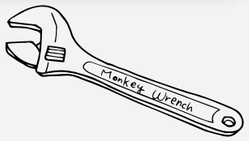
進行を円滑にするための確認徹底や人材育成

作業面では、材料や板の管理をしっかり行い、次の工程に支障をきたさないよう心がけています。工場全体の作業の流れが変わることもあるため確認を怠らず、速やかに切り替えられるよう、常に注意を払っています。
長期的な視野で見ると、米谷さんや林さんの後継者を育てることが大切な課題です。一人前になるには学ぶことも経験も必要で、なかなか難しいもの。今以上に質問や相談がしやすい、風通しの良い環境をつくって人材育成に努めたいと考えています！



ヨネモリのマシンラインナップ vol.1

どの部署にもなくてはならないマシンが存在します。今回ご紹介するのは、鉄構部 鉄構1課で日々活躍している「オートボーラー」です。その機能や注意点について、林さんに聞きました！



今回紹介する機械

オートボーラー

オートボーラーは鋼材に孔をあける機械です。大きく分けると、2つの種類の孔をあけるのに使用します。一つはボルトを通すための孔。もう一つは、めっき処理時に、めっき溜まりを防ぐための孔です。建築鉄骨など鋼材加工のプロである当社の一次加工にとって、基本的な機械で出番も多くあります。



鉄構部
鉄構1課 主任
林（はやし） 大紀（だいき）さん

アピールポイント



何枚もまとめて孔をあけられます！

厚さ100mmに孔をあけることが可能です。6～12mmほどの板を、100mmを超えない範囲で何枚も重ね、油圧クランプでずれないようにしっかり挟んで加工します。これができなければ1枚1枚作業することになり、作業効率が大幅に低下するでしょう。オートボーラーはこれまでにもバージョンアップを重ねており、最近では長孔をあけられるタイプが新しく入ってきました。今後のさらなる活躍に期待です！

実際に製造した製品例



パーツ製造で活躍中

大きな建築物を支えるパーツ製造に活躍しています。柱と柱をつなぐところ、ボルトでしめたところなど目には見えない場所で活躍しており、当社では欠かせない機械です！



⚠ 使用する際の注意ポイント

入力ミスでドリルが砕けることも！

作業者は加工する鋼材の厚さと枚数を入力します。入力した数値よりも厚さがあるとドリルが砕けて飛び散り、重大な事故につながりかねません。安全を確保するために、作業者には必ず確認するよう指示しています。
実は、私も急いで作業しなければいけないときに焦ってしまい、間違えて入力したことがあります。例えば9mmを6mmと誤って入力すると、3mm×枚数分の厚さに誤差が生じます。まとめて加工できるという利点がある一方、危険も大きくなるため、人の目でしっかり確認することが不可欠です。